

普及活動情勢報告（平成30年3月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

炭酸ガスの効果や、病害虫の調査を実施しています ～イチゴの巡回指導～



‘ゆめのか’の様子

農業改良普及課では、土佐市でイチゴ（品種名‘ゆめのか’）を栽培している生産者3名のは場を、毎週1回巡回を行い、病害虫の発生状況を調査し、栽培指導を行っています。

そのうち2名の施設では、炭酸ガス施用を行っており、炭酸ガスの濃度や施用効果について、生産者と情報の共有と課題等の検討をしています。

今後、気温の上昇とともに病害虫の発生も多くなるため、農業改良普及課は、J Aと連携して巡回指導や調査を続けていきます。

環境制御技術や、担い手確保の取組などで意見交換 ～第2回中央西地区農業改良普及推進協議会を開催～



普及実績の説明

2月26日、中央西地区農業改良普及推進協議会を行いました。農業改良普及課からは、今年度の実績を報告し、来年度の計画等の説明を行いました。

協議会では、環境制御について、これまでの取組の状況や、労力の負担増の課題について意見が出されました。担い手確保の課題では、農業担い手育成センターからの説明に、研修の受講についての質問が出されました。

今後、農業改良普及課は、生産者や関係機関と意見交換をし、普及指導計画を進めていきます。

「第9回土佐・ぶんたん祭」が開催されました！ ～さらなる知名度向上に向けて生産者と関係機関が連携～



大盛況で対応に追われる生産者

3月4日に高知市中央公園で土佐文旦振興対策協議会が主催の「第9回土佐・ぶんたん祭」が土佐の「おきゃく」2018に合わせて開催されました。

当日は、管内から土佐市の生産者13名と、J Aとさし、農業改良普及課が参加し、これまでにない午後の早い段階で260箱分が完売。大盛況のうちに終わりました。これも生産者と関係機関が一体となり、土佐文旦の知名度向上のために地道に取り組んできた成果であり、まだまだ消費が伸びる余地があることが感じられました。

次回は第10回という節目の年であり、農業改良普及課では引き続き知名度・消費向上に向けて支援していきます。

新規就農者支援に向けての面談 ～土佐市のサポートチームの活動～



サポートチームの面談風景

3月15日、土佐市において、農業次世代人材投資資金（旧青年就農給付金）事業実施に係るサポートチームの面談、審査が行われました。

これは、国の事業制度の見直しにより、新規就農者へのサポート体制の構築が必須となったもので、該当する新規就農者一人一人に対して、関係機関の専門性を活かしたサポートチームを編成し、支援を行っています。チーム員からの、「困ったときの頼り先は？」とか、今後の計画や経営収支の把握等に関する質問に新規就農者は、丁寧に答えていました。

サポートチームによる現地確認等は年4回ありますので、農業改良普及課は、今後ともチームの強みを活かした支援を行っていきます。